

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

さまざまな出来事。新聞は、子どもと身近な地域・広い世界をつなぐ「窓」になつていています。



つながり生む大切な「窓」

札幌市共栄小校長 平岡 弘之

教室の掲示板には、担任と子どもたちが生み出すさまざま取り組みが表れている。この学級では、朝の会で自分が見つけた紙には、その記事についての自分のコメントが書かれていた。

小さな新聞記事を張り付けて、新たな出来事を通して見えるさまである。絵や写真も入れて、1枚1枚に、これまで学習してきた成果が表れている。子どもたちの学級の会で自分が見つけたニュースの発表をしている。

この会で自分が見つけたニュースの発表をする際には、その記事についての自分のコメントが書かれていた。

いる。

室蘭と帯広でNIEセミナー

NIEの第6回室蘭・胆振セミナーは2月6日、20人が参加して北海道新聞室蘭支社で開かれた。第8回帯広・十勝セミナーも十勝新聞教育研究会と共に同月13日、教職員40人を集めて十勝毎日新聞社で開かれ、実践例などを報告し合った。

新聞に慣れ表現力向上

室蘭大谷高

教諭は社会科の授業で、高い設備費をかけて鮮度の高いサンマを獲る漁法に切り変えた漁家の心境や、高齢者の安否確認ができる無線通信機能つき給湯ボットの開発と取り組む企業担当者の気持ちを調べることで児童に問題解決に取り組む意欲が芽生えた例を紹介した。

室蘭では小、中、高の5人が報告した。札幌市立北九条小の佐藤元昭

一教諭は、自分たちならどう



まちで取材児童に自信

幕別・糠内小

一方、帯広では4人が報告した。幕別町立糠内小の池田圭子教諭は、わずか16人の小規模校



け、自信をつけていく様子を報告。「取材がきちんとできれば、ボイントを絞った記事が書ける。新聞にはドラマがいっぱいあり、自分が現れるチャンス」と利点を強調した。

うするかの視点でつくる、かべ新聞づくりを紹介。「製作する時間的余裕はないが、苦労があるからこそ価値も大きい」と完成させた時の感動の大きさを強調した。

教諭は、生徒がNIE実践で配布される新聞各紙の管理と取り組むことで、少しずつ新聞に慣れていく様子を紹介。新聞購読が面接や小論文の表現力アップに張り合わせたエコバッグの製作について報告。

室蘭大谷高の福岡ひろみは、洞爺湖町のPRになる地域のニュースを大きく扱う。室蘭民報などの紙面を張り合わせたエコバッグの製作について報告。

つながる側面も強調した。虻田高の濱野葉月教諭は、洞爺湖町の狩野千賀子教諭が、洞爺湖町のPRになる君の広場に掲載され、読者の共感を得ることで生徒の自己肯定感が生まれ、文章表現も少しづつ成長していく様子を紹介した。

山岸申弥

北斗市大野中教諭



NIE実践奮闘記

私は中学校で3学年の社会科を担当しています。

「新聞には教材づくりのヒントがある」と毎日思いながら新聞に目を通しています。私たち教師が子供たちに伝えなくてはならないことは、たくさんあります。

株価欄使い仮想投資

1ヵ月後、再び株価欄

が載っている中から子供たちに企業を一つ選ばせ、千株を買ったこととする、仮想投資をさせてみました。

社会科以外にも、道徳や学級活動において新聞の力を借りています。中学生という発達段階で、社会の厳しさを認識させた。

した。社会情勢の一部分を理解させることができます。

また、新聞各紙で中学生や高校生の意見を取り上げるコーナーが充実しており、同年代のさまざまな意見や考えを取り上げて議論したりもしています。

清水町立御影中の杉野浩宏教頭が田中努教諭の代理で報告。歴史新聞を使つた授業は、資料を読み取る学習がほかの分野でも生きる

音更町立緑南中は野上泰和教諭は、新聞スクラップや株式学習ゲーム、国際面で扱う最近の記事の国別比較などについて考察。海外記事は大地震に見舞われたハイチや爆弾テロが続く中東の記事に集中して多い様子などを報告した。

帶広農高新聞局顧問の山本邦顕教諭は、スポーツ大会などで活躍する選手を取り上げた記事を扱う「帶農タイムズ」や「柏ヶ丘新聞」の精力的な取材ぶりを紹介した。

「新聞には教材づくりのヒントがある」と毎日思いながら新聞に目を通しています。私たち教師が子供たちに伝えなくてはならないことは、たくさんあります。

しかし、言葉だけではなかなかうまく伝わりません。実社会で起こっている出来事を、新聞の力を借りて子供たちの力を伸ばす。その考え方です。それで、「奮闘記」とするの恥ずかしい気がします。

私は中学校で3学年の社会科を担当しています。

「新聞には教材づくりのヒントがある」と毎日思いながら新聞に目を通しています。私たち教師が子供たちに伝えなくてはならないことは、たくさんあります。

社会科以外にも、道徳や学級活動において新聞の力を借りています。中学生という発達段階で、社会の厳しさを認識させた。

した。社会情勢の一部分を理解させることができます。

また、新聞各紙で中学生や高校生の意見を取り上げるコーナーが充実しており、同年代のさまざまな意見や考えを取り上げて議論したりもしています。

清水町立御影中の杉野浩宏教頭が田中努教諭の代理で報告。歴史新聞を使つた授業は、資料を読み取る学習がほかの分野でも生きる

音更町立緑南中は野上泰和教諭は、新聞スクラップや株式学習ゲーム、国際面で扱う最近の記事の国別比較などについて考察。海外記事は大地震に見舞われたハイチや爆弾テロが続く中東の記事に集中して多い様子などを報告した。

帶広農高新聞局顧問の山本邦顕教諭は、スポーツ大会などで活躍する選手を取り上げた記事を扱う「帶農

タイムズ」や「柏ヶ丘新聞」の精力的な取材ぶりを紹介した。

優れた教育実践を表彰

全国紙の

取り組み

7



教育奨励賞の表彰式 (上) と内外教育



詳報伝える 「内外教育」

社
時事通信社
門家を読者とする内外教育
は、全国の学校を結ぶ交流
の場となっている。
週2回発行の内外教育は
内容を内外教育で詳しく紹
介している。教員や教育専
門家を表彰。実践の
内容を学ぶ学校を表彰。実践の

時事通信は児童・生徒向けのニュースサービスは行つていいが、教育行政や学校でのさまざまな取り組み・教育関係ニュースを専門に伝える「内外教育」を1946年から発行している。85年には「教育奨励賞」を創設し、文部科学省の後援事業として創造性に富む教育実践で成果を挙げる。

国内外のニュースや写真を新聞、放送各社に、また、金融機関向け情報を企業向けに配信している時事通信社。NIEを含む教育関係ニュースの扱いや講演など、同社の最近の動きについて寄稿してもらつた。

を詳しく伝え、全国高等学校NIE研究会が開催する
研究発表全国大会も細かく
紹介してある。

学校結ぶ交流の場

全国の小中高校、大学、専門学校などの教員や学校運営の責任者らが主な読者。文科省や各教育委員会の施策を伝えるほか、学校で起きている問題や教育に関係するニュースの紹介、分析、解説記事などを掲載している。筆者は時事通信の記者のほか教育専門家、教育専門のジャーナリストなど多彩だ。

最近の紙面では、外国人労働者の子供たちを対象にした学習、就学支援を始めた愛知県西尾市の取り組みを紹介。また、大震災から15年を迎えた神戸市で、震災を知らない市民に地域の歴史としての震災と防災への教訓を伝えるため、小・中学校の教員が「防災教育アドバイザー」となつて防災教育に取り組んでいる様子などを取り上げている。

NIE全国大会は毎回、各地からの報告やパネルディスカッションの内容など

努力賞を受賞している。内外教育は同年10月27日付の紙面で、「高山植物で地域の特性を学ぶ・北海道礼文高等学校」と題して、写真入り2ページの記事を掲載。特定国内希少野生動植物種に指定されている「レブンアンツモリソウ」など高山植物を観察するフィールドワークを取り入れた授業や、生徒によるガイド活

北海道NIE推進協議会（会長、山田家正・小樽商大名誉教授）の2010年度総会が5月15日（土）午後1時30分から北海道新聞

カリキュラムにNIE

事務局長会議 東京での試み紹介

山植物を観察するフィールドワークを取り入れた授業や、生徒によるガイド活動、島の生態系をゆがめる外来種の駆除活動などを詳しく紹介した。

全国の支社、支局の記者が学校に出向き、報道の役割などをテーマに話す機会も多く、今後も教育と報道の橋渡しを積極的に果たしていくたいと考えている。

（時事通信編集局総務 安達功）

II おわり

NIE推進協議会の第14回事務局長会議は1月28日、東京のプレセンタードで開かれ、赤池幹NIEコーディネーターらが新聞やNIEを新たにカリキュラムに取り入れる最近の学校の動きなどを紹介した。

赤池コーディネーターは、小中一貫教育と合わせて新年度からNIEと新聞づくりをカリキュラム化することになった東京・武蔵村山市立学校と「新聞大好きプロジェクト」として授

業に新聞を活用する東京・北区教育委員会の試みを取り上げた。現場の教育長らがNIEの活動に熱心だったり、理解を示したことで実施が決まった背景を説明した。

また、各地のNIEの大學生への取り組みも報告され、独自に指定活動を続けている道協議会の黒田正一事務局長は「協議会としてもそろそろ大学への指定拡大を検討すべきではないか」と提案した。

5月15日に総会
道N-E推進協

本社（札幌市中央区大通西3の6）2階E会議室で開かれる。NIE実践校の内定報告のあと09年度の決算報告、指定校の実践発表、役員改選などが行われる。

○…卒業まで秒読み

○…卒業まで秒読みに入っても「就活」が終わらない新卒予定者たち。超々氷河期の就職戦線が、彼らの表情をいっそう険しくさせている。道内は、異常な底冷えぶり。この事態を想定して早めの活動で高い就職率を維持する帯広などの高校の例もあるが、ほかは似たような状況だ。

○…こうした時だからこそ、就活に強い体質がほしい。その意味でもっと新聞を活用してもらいたいと思う。昨年末に公表された高校の新学習指導要領には「新聞」の文字が解説書の総則などに数多く盛り込まれた。言語活動の充実には欠かせないツールとして認められた証拠だ。

○…企業側も、携帯ばかりのぞき込むような人材より、確かな情報にたどり着ける労働力を求めていいるはず。情報収集能力や思考力のある、バランスの取れた人材を育てる地道な活動が、新聞に触れる行為から始まるのではないか。

(大)

日、東京のプレスセンターで開かれ、赤池幹NIEコーディネーターらが新聞やNIEを新たにカリキュラムに取り入れる最近の学校の動きなどを紹介した。

赤池コーディネーターは、小中一貫教育と合わせて新年度からNIEと新聞づくりをカリキュラム化することになった東京・武蔵村山市立学校と「新聞大好きプロジェクト」として授

業に新聞を活用する東京・北区教育委員会の試みを取り上げた。現場の教育長らがNIEの活動に熱心だったり、理解を示したことで実施が決まった背景を説明した。

また、各地のNIEの大學生への取り組みも報告され、独自に指定活動を続けている道協議会の黒田正一事務局長は「協議会としてもそろそろ大学への指定拡大を検討すべきではないか」と提案した。

本社（札幌市中央区大通西3の6）2階E会議室で開かれる。NIE実践校の内定報告のあと09年度の決算報告、指定校の実践発表、役員改選などが行われる。

また、これに先立ち北海道NIE研究会の10年度総会が同1時から同2階NIEプラザで開かれ、新役員と事業計画などを決める。

An icon of an envelope with a double-lined 'M' inside, representing email.